

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2014年10月24日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

問題点を知り共有し、運動や政治に結びつける必要がある！

好評だった室蘭での北海道社保学校 全道各地から参加

10月19日（日）、北海道社会保障学校 in 室蘭が行われました。今回は、「国の責任を放棄する『自己責任論』を克服し、憲法を活かした社会を」をテーマに行われ、道内各地から160名以上が参加しました。

記念講演は「チャイルド・プア 社会を蝕む子どもの貧困」

NHK若手ディレクター 新井直之さんが 映像も使って講演

記念講演は、NHK報道番組ディレクターの新井直之さんが、特報首都圏「急増 苦しむ子どもたち」などの映像も使って、子どもの貧困の実態を告発し、解決にむけた取り組みなども紹介、大人が何をしなければならいか、共に考えましょうと呼びかけ、好評でした。（感想文の一部を紹介します）



- チャイルド・プアの現実に涙が出ました。
- 子どもの貧困は、単に世帯の経済的な問題だけでなく、子どもたち自身の世界がこわれ、友達付き合いも、社会的関係も維持できなくなっていく、生きていく意欲、努力する気概さえ失っていくなど問題を含んでいることの重大性を感じました。
- チラシをみて参加したいと思い札幌から同僚とききました。栄養士ということもあり、子どもたちが満足に食事をとれて安心して暮らせることに何かできることはないか？考えていたところです。
- 楽しみにしてきましたが予想以上に良かったです。家庭の問題はかくそうとするため、まわりは気がつきにくく、気がついて介入しにくいことと思ってきました

たが、気がついた時にはアクションを起こしていくことが子どもを救うことにつながるので、勇気をだすことが必要だと感じました。

- 「対策」として提示されていたスクールソーシャルワーカーは興味深く聴く事ができました。
- 国は対策法の一方で生活保護基準の切り下げを行っています。これは就学援助などの制度の引き下げにもつながることで、とても矛盾なことに思います。私たちは、貧困問題について関心を持ちつづけ、実態をつかみ国への働きかけと同時に、身近でできる事を考えることが大切だと学びました。



特別講演・3つの分科会も好評でした。

当日は、橋本忠雄・室蘭工大名誉教授が室蘭の環境問題についての特別講演や3つの分科会も行われました。

第1分科会「安心して住み続けられるまちづくりは？」では、社会福祉法人札幌南勤労者医療福祉協会の石井秀夫常務理事が、医療介護総合法の問題点や自治体・住民への影響、行政への働きかけ方などについて小講演し、介護保険料問題など各地の取り組みを交流しました。住民運動で白老町立病院の存続をかちとった「白老町立病院を守る友の会」の報告が注目を集めました（写真）。

第2分科会の「国民皆保険制度をいかに守るか」では、札幌社保協の斉藤浩司事務局長が小講演し「医療の市場化や営利化とのたたかい」を強調しました。道内各地で広がっている高すぎる国保料の引き下げ運動なども交流しましたが、年金保険料の滞納処分が行われていることも報告されました。

第3分科会の「相談員養成講座」では、労働相談と生活相談の専門家がリアルな実態や相談活動の経験を踏まえて講演しました。参加者からは「相談者に寄り添うことを原点に頑張っていきたい」などの感想が寄せられました。



11月14日、15日は、地域の国保問題や介護・高齢者福祉問題を交流します。
記念講演（15日）は「国保の都道府県化の問題点」講師 辻清二さん（全生連副会長）